

こぼれ話 25

畦道を歩けば

水田の用水の周辺には、ふるさとを感じる植物が数多く見られます。名前は知らずとも見慣れた植物が多いのではないのでしょうか。

春の七草は水田の周辺でも見つかります。ナスナ、ホトケノザ、そしてセリは水辺を好みます。

田おこし前のレンゲ畑は「春の田園風景」としておなじみです。レンゲソウは、根につく根粒菌により、田植え前にすきこむことで肥料となりました。春に細長い花穂をつけるスズメノテッポウは子供が笛のようにして遊びます。

土方歳三の家伝薬「石田散薬」の原料ミゾソバは、用水などの水際を好み、土用の丑の日に収穫したそうです。秋の彼岸に真っ赤な花を咲かせるヒガンバナも畔に植えられました。

そのほか稲作の四季とともに、たくさん植物に出会います。それらの植物は農家を困らせることもありませんが、水田とともに人々にとって身近な存在でした。しかし、水田の減少とともに目にする機会も減ってきました。

